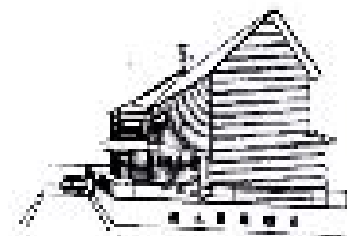


<今日は何の日> 母の日をむかえました。ところがこの記念日、広辞苑などには説明されていますが、肝心のキリスト教事典などには見当たらないことがあります。多分チロルチョコレートという会社やデパートが仕掛け人になっているセントバレンタインデーなども、教会の雰囲気はしますが、いろいろな説があるようです(母の日については一昨年の週報に少し書きましたので見てください)。私たちは、AD.2009年などとキリストの降誕を基準にしていますが、聖書はどうなんでしょう。旧約聖書にも、月や日付に関する記録はたくさんあります。今でのイスラエルでは、ユダヤ暦が用いられています。Thischri(ティシュリ) 30日、Marcheschwan(ヘシュウアン) 29日 or 30日、Kislev(キスレウ) 29日 or 30日、Thebeth(テベト) 29日、Schebath(シエバト) 30日、Adar(アダル) 30日、Veadar(ベアダル、閏月) 29日、Nisan(ニサン) 30日、Ijar(イツヤル) 29日、Sivan(シウアン) 30日、Thamus(タンムズ) 29日、Ab(アブ) 30日、Elul(エルル) 29日などと用いられています。今日用いられている暦は“政暦”で、別に“教暦”とは古代の農耕暦があります。月の読み方が二つ存在し、バビロン捕囚の出来事が、だいたい境目のようになっています(列王記より前と、エズラ記より後)。また現代の政暦には、アダルシェーニーと呼ばれる閏月、13番目の月が19年に7回あります。現代の過ぎ越しの祭りがおこなわれる、3月か4月は、ニサンの月で、古代の教暦のアビブの月にということになります。政暦では秋から新年が始まるので7番目(閏年では8番目)になります。バビロン捕囚後(エステル記3:7)はバビロニアの言葉ニサン又に倣って、ニサンと呼ばれるようになったもので、大麦の収穫の始まりを祝う月でもあります。“アハシュエロス王の第十二年の正月すなわちニサンの月に、ハマンの前で、十二月すなわちアダルの月まで、一日一日のため、一月一月のために、プルすなわちくじを投げさせた”が、その聖句ですが、身近に感じないでしょうか。日付を記録するということは、確実性にもつながります。“六百歳の二月十七日(創世記7:11)”ノアは箱舟に入ったのですが、これはウソでしょうか、何かの言い伝えでしょうか、いずれにしても、あまり読み飛ばしたくないものです。天地創造の年から数え始め、西暦に3760を加えた年になっています。イスラエルの公式行事は建国以来、これによって行われています。律法の書も暦に従って読み進められ、聖書日課のように大切にされています。

週報

2009年 5月 10日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp